

エンパワーするNGO



京都 YWCA

11
2020

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

多文化ルーツの子どもたちの居場所プログラム「夏祭り」

いっしょの夏に、むすばれて



コロナの流行った暑い夏。口はマスクで覆われていても、笑い声はマスクなぞ突き抜けて響き、笑顔はこぼれ輝いた「多文化こども夏のプログラム」。以下はその報告です。

楽しいプログラムの数々

- いつもはいないお兄さんたちが突然やって来て、サッカーボールを巧みに操り、遊び、勉強まで教えてくれて、ビックリ。
- ミニホールが、急に映画館になり、面白くも、何だか奥深い、ちょっと“おとなっポイ”映画『ズートピア』を観て、ワクワク、楽しかった（中学生はちょっと考えさせられたかも）。
- 「こどもフェスティバル」って、何かなと思えば「スーパーボールすくい」や「ヨーヨーつり」。そして「輪投げ」で景品ゲットの夏祭りやった。
- いろんなゲームも、「ご○ぶりポーカー」も、みんなで出来て楽しいひとときを過ごした。
- 「うららかふえ」の美味しいランチ（お魚、そうめん、親子丼、ドライカレーなど）は絶品でした。「フェスティバル」では特大ピザを多文化共生委員会の皆さまに焼いてもらって、ホッパが落ちるようなプリンもいただいた。メロンも、スイカも、アイスも。ああ、おいしかった。ごちそうさまでした！

- もちろん勉強も、お姉さん、お兄さんたちに、“よくよく”みてもらって、ちょっとは、進んだかも。

こころも身体も解放して成長

わたしの思いと参加したそれぞれの子どもたちの思いが重なって、こころもイキイキして動いてくれたのなら、本当に幸いです。

今年の新学期には、学校にも行けずさまざまな場所が閉じて、それぞれのご家族も、子どもたち自身も辛い思いをした時でした。ですから何よりこの時に、こころも身体も解放されるプログラムを共にすることができて、本当に良かったです。

このプログラムの中での成長がありました。それは、それぞれが自分の時間を大切に、男の子二人だけのゲーム談義や、一生懸命勉強に励む中学生がいて、その姿に励まされ、やる気に満ちていく子もいる。それぞれが自分の時間を、自身でプロデュースして、充実して過ごすことが出来たことは、何より良いことでした。

「さあ、頑張るわよ～！楽しみましょ」と職員の張さんは、肝っ玉母さんのごとき大きな愛で子どもたちを包み、導き、そして若いスタッフも細やかな配慮の内にグイグイ引っ張っていきます。わたしも子どもたちと若い皆さんといっしょに結ばれていくチームの片隅にいらせていただいて、まことに元気いただき、感謝でした。

「わたしはあなたをお願いします。トライしてください。この世界をよりよい世界にするように。あなた自身をよく見て。変化はあなたから始まる。それはあなたから、そしてわたしたちすべてから始まります」（『ズートピア』主人公ジュディ・ホプスの言葉）

この夏、子どもと一緒に過ごすプログラムの中で、こころ結ばれるいのちの喜びが、魂にいまだ響いています。

（日本キリスト教団室町教会牧師 浅野献一）



子どもたちによる看板



ヨーヨーつりで遊ぶ子どもたち



「防災お話し会」に参加して



9月10日に開催された「防災お話し会」に参加しました。

今回の講師の太田興さんは、日本防災士会京都府支部副支部長始め、地域の自主防災会の専門委員や、学校、行政の防災教育の講師を務められています。

太田興さんが「防災」に取り組むきっかけとなったのは、彼自身が「阪神淡路大震災」の被災者となったことです。

「あの日」の事は、決して忘れられない、と語っておられます。

①「地震は必ず来る」

私は大地震の被害に遭わない、京都は大丈夫、と心の中で思っている方は多い。しかし歴史を紐解けば、大地震が何度も京都を襲っていることが判ります（京都御所には「地震殿」と呼ばれる建物があります）。花折断層、黄檗断層、西山断層などに囲まれ、さらには南海トラフが動く「その日」はやってきます。

②「地震に備える」

まず自分を守る。家具の転倒防止、避難経路の確保、出火防止、等。＜釜石の奇跡＞は、偶然ではなく、普段の準備の成果です。

③「京都 YWCA の今後の取り組み」

京都 YWCA は間もなく 100 周年を迎えます。長年大切に用いてきたヴォーリズ建築の「サマリア館」、事業・活動の拠点の「本館」、今春開設された「あじさい保育園」。多くの人が集う施設が、安心・安全であるように、意識の共有が必要だと思います。

「京都 YWCA のキャンプのノウハウが、防災に活用できるね」という発言がありました。私もそう思いました。京都 YWCA として、被災者支援も視野に入れた「防災計画」を持つことが必要であり、国際 NGO としての真価が問われるのかもしれません。
(会友 近藤純弘)



福島プロジェクト「オンライン同窓会」を開きました！



2011 年 3 月 11 日の東日本大震災によって引き起こされた東京電力福島第一原発の事故。京都 YWCA では直後から自分たちにできる被災者支援を YWCA のネットワークを生かして実施してきました。

2019 年度には「おこしやす春休み in 京都」として、環境についての学びや京都を楽しめるものを準備していましたが、COVID-19 の感染拡大を受け、残念ながら開催を断念しました。

前後しますが、2014 年 6 月には「福島の旅」を実施し、2011 年から京都 YWCA での保養プログラムに参加してくれた当時小学生、中学生やそのご家族とのリユニオンを日本 YWCA の福島支援拠点である「カーロふくしま」で行いました。楽しい交流の時を持ち、参加者は 6 年後の自分に宛てて手紙を書きタイムカプセルに保管しました。

今回同窓会のお知らせは、タイムカプセルに手紙を収めた人、保養プログラムの参加者、関わってくださったボランティアにお送りしました。中には宛先不明で返ってくる郵便物もあり、時間の経過を感じました。

9 月 27 日の同窓会当日には、成長した 3 人の参加者と画面で再会しました。小・中・高校生の時に複数回参加してくれた姉妹と友人でした。懐かしい顔をお互い見るとエピソードが蘇ってきました。参加できなかった方からもメー

ルで思いや近況を寄せていただき、心温まる時間を共有することができました。時間と距離を超え、出会いと今後のつながりも感じられる素敵な時間を持つことができました。

事故から今に至るも、国は各地にある原発の再稼働を認めようとしています。その中で、直近に「生業を返せ、地域を返せ 福島原発集団訴訟」の第 2 審（仙台高裁）は、明確に国の責任を認める判決を出しました。今後も注視し続け、「核」のない持続可能な地球環境を目指し活動を継続していきます。
(弘中奈都子)



Zoom で懐かしい顔が集まりました

ベルギーからの便り②

難民に心を寄せて支援を続ける市民たち

ベルギーにお住いの京都 YWCA 会員の上羽郁子さんが見たヨーロッパ事情をシリーズで報告していただいています。

9月にギリシャ最大のモリア難民キャンプで火災が発生し、1万人以上が避難を強いられ、そのうち子どもが約4千人、とのニュースが流れました。すぐにヨーロッパ各地で、モリア難民キャンプや、難民の受け入れ態勢の改善を訴える抗議行動がありました。ベルギーでも人権団体「アムネスティ」やベルギー NGO 協議会などが呼びかけ、ブリュッセルにある欧州議会前の広場に多くの人々が集まりました。

呼びかけ団体以外には、日ごろ、難民支援活動を地道に続けている市民グループの顔もありました。アフリカ諸国、シリア、アフガニスタンなどから命からがら逃れてやってきた人たちに少しでも役にたつよう、食料配給や宿泊の提供をしている人たちです。

5年前、ブリュッセルの移民局前の公園は、テントを張ったり、野宿する人たちであふれていました。移民局前にいち早く並んで、難民申請の整理券を獲得するためです。1日の申請人数に制限があるため、整理券をもらえなかった人たちは公園で何日も待つことになります。

そこで、市民グループが主体となり、移民局の前で朝食の差し入れをする活動が始まりました。週に一度、コーヒーを作ったり、パンや果物を持ってきて配ったり。お手伝い

に来る人たちは、老若男女。職業もいろいろ。コロナ禍の現在は場所を移動して継続されています。

朝食の差し入れのほかに宿泊提供もありました。個人が集まったグループは、冬の寒い夜、宿泊と夕食をおもてなしするボランティアを募っていました。「難民＝怖い」というイメージをもっている人も、まだまだいます。心温まる宿泊の様子は、新聞で何度も取り上げられました。

難民の問題は5年前と変わらず、ヨーロッパ各地に存在します。彼女・彼らが自国を離れなければならなかった根本的な問題を考えると同時に、私は集まりに参加したり、朝食のバナナを一度だけ届けたりと、小さなことをさせてもらいながらの日々をここベルギーで送っています。（上羽郁子）



欧州議会前、広場に於て。集まりに参加する朝食活動の立ち上げメンバー（写真中央。白いマスクの女性）

シリーズ「あじさい保育園だより」③

0歳児クラス「もも組」の子どもたちの一日



京都 YWCA あじさい保育園の0歳児クラス、もも組6人の子どもたちのある日の様子をお伝えします。

朝は保護者から保育者へのお子さんのバトンタッチから始まります。「おはようございます。体調はどうですか?」「元気です」「昨日チーズを初めて食べました」など、短時間で子どもたちの様子を聞いて受け入れます。子どもたちが好きなことを探して遊んでいるうちに、子どもも保育者もそろって、朝の集まりになります。

集まりでは、手遊びや季節のうたを歌い挨拶をします。子どもたちは歌に合わせて体を動かしたり、名前を呼ばれると手をあげたり笑顔で返事をします。簡単なおやつを食べ、その後は活動をする高月齢児と、午前寝をする低月齢児に分かれます。

高月齢児は散歩カーに乗ってお出かけです。自動車やバスを見て声を上げ、御所では小川に流れる水を見て、コオロギの声を聞き、松ぼっくりを拾います。季節の移り変わりを感じながら進んでいると、さっきまで声を出していた子が眠っていたりします。

お出かけ後、低月齢児も起きて給食の時間になります。保育者に手伝ってもらいながら、手づかみやスプーンで食べています。調理スタッフの心づくしに感謝して、全員が完食です。

昼食が終わると高月齢児は午睡、低月齢児はホールに行

きます。ハイハイがうまくなり、マットで作った坂を上ったり、ボールを追いかけたり。部屋に戻ると低月齢児も午睡です。遊んで、食べて、眠って、丈夫な心と体が育っていきます。午睡から目覚めると午後のおやつタイム。手作りのおやつと牛乳をいただきます。

おやつを食べてからは、おもちゃや絵本などで遊びます。「読んで」と持ってきた絵本を保育者が読み始めるとほかの子どもも集まってきて、全員で一冊の本を見たりします。そうして遊んでいると保護者の方が迎えに来られます。



もも組保育室の様子

夕方は保育者から保護者の方にバトンタッチです。「今日は御所に行きました」「ハイハイのスピードが速くなりました」など日中の様子を話して降園。その日の保育園での生活は終了です。

（横川宏美）

今後のプログラム

◎ YMCA/YWCA 合同祈禱週集会

- 日 時：2020年11月27日（金）19:00～
 ■話し手：平良愛香さん「レジリエンスへの道（仮）」
 ■参加方法：Zoom 参加（来館参加可）
 ■参加費：500円（学生300円）
 ■申込み：要（11月25日まで）
 ■場 所：京都 YWCA
 ■主 催：京都 YMCA・京都 YWCA

◎クリスマス集会

- 日 時：12月19日（土）午後
 ■場 所：京都 YWCA
 ※詳細未定。お問い合わせください。

「京都 YWCA 未来応援募金」へのご協力をお願い

新型コロナウイルス流行により、京都 YWCA が日頃地道に取り組んできた事業が大きく影響を受けています。これを克服して事業を進めていくための「緊急支援募金」を含め、3つの未来応援募金を実施しています。



皆さまからのご支援をお願い申し上げます。

- ◎未来応援募金——緊急支援募金（目標150万円）
 新型コロナウイルスの影響を乗り越えていくために。
 ◎未来応援募金——保育園備品募金（目標120万円）
 園児の健やかな成長に応じての備品購入に。
 ◎未来応援募金——ユース育成募金（目標80万円）
 国内外のプログラムへの若者の参加支援などによる次世代育成。

郵便振替 01080-9-1566
 加入者名 公益財団法人京都 YWCA

*通信欄に未来応援募金の中の指定する募金名をご記入ください。
 京都 YWCA へのご寄付の詳細は事務所に問い合わせさせていただくか、ホームページをご覧ください。
<http://kyoto.ywca.or.jp/support>

遺贈のご案内

生前にご遺産の一部を寄付されることをお約束いただく制度です。女性と子どものエンパワメントをめざす京都 YWCA の事業への賛同のご意志が、未来にひきつがれます。

おススメです！



映画『ぼくは猟師になった』

（2020年、制作：NHK プラネット近畿、監督：川原愛子）

京都の山で、くくり罠による猟をする猟師がいる。本作の主人公は、その猟師、千松信也さんである。罠にかかった猪を棒で殴り、馬乗りになってナイフで心臓を刺して捕まえる。千松さんは家族や知人などが必要とする分だけ獲り、その骨も内臓も余すところなく利用する。対照的に、農業を守るために害獣として殺され、処理施設で燃やされ産廃廃棄される何万頭という命も本作では登場する。私たちの口にする野菜を育てるためには、山の動物たちを殺さざるを得ない。だが、私たちはその命がどうやって殺され、消えていくのかを知ることにはない。一方で、千松さんの命の殺し方、捌き方、感謝の仕方は彼の子どもたちに受け継がれていっている。子どもたちは笑顔で命と向き合って生活しており、残酷という言葉からはほど遠い生活のあり方が描かれているのだ。動物たちの最期の鳴き声、さばいた腹から立ち上る湯気から命の生き抜いた証、そしてその命とともに生きている人間の姿を見ることができる映画である。（編集部）

ご協力ありがとうございました

2020年8月1日から2020年9月30日 寄付者一覧（敬称略、順不同）

一般寄付

重谷秀星、清水義、野崎泰子

各指定寄付

*未来応援募金

・緊急支援

上村愈巳子、平野富希、有田孝子、舟木加代、
 重谷秀星、太田興、匿名

・保育園備品

重谷秀星、上村愈巳子、安藤いづみ

・ユース育成

重谷秀星、上村愈巳子

・指定なし

伊豆蔵孝子、橋本良子、中村都紀子、
 平野富希

*親・子育て支援委員会

岩崎明生、重谷秀星、平野富希

*多文化共生委員会

重谷秀星、匿名

*APT

坂和優、上内英子、森田園子、大畑泰次郎、
 富名腰由美子、北村保子、本田次男、
 木戸さやか、有田孝子、高山亨、山下真、
 菅原充子、大西澄子、仲本直子、
 ヌヴェール愛徳修道会

*平和環境活動部委員会

重谷秀星

*自立援助ホーム「カルーナ」

亀田和代、近藤八津子、今井貴美江、重谷秀星、
 小杉總子、上村和直、島崎日丹子、平野富希、
 野田沙良、近野玲子、若尾典子、斉藤洋子、
 中江和子、飯田融子、富田恵津子、山崎美和子、
 小川久美子、船越克真、竹岡哲朗、匿名

*賛助費

高島照子、重谷秀星、白根睦久、北村保子、
 中川愛子、日月公子、匿名

9・10月／理事会報告

- フードバンク「セカンドハーベスト京都」に協力し、9月より食品の寄付を受け付けるコーナーをロビーに設置。
- サマリア館の中長期的な補修について建築事務所の助言を得て補修計画の概要を決めた。
- 9月より2021年度の保育園入園希望者の見学会が始まった。
- 親子ライブラリーが、保育園での読み聞かせ開始に続き10月より地域子育てステーションとして月1回親子ライブラリーを開室。
- 10/17：秋のプチスリフトセールを、新型コロナ予防対策として3つの時間帯に区切り事前予約制で実施。
- 10/24：高齢者住宅サラームの居住者向けの秋の交流会（御所散策）を実施。
- 改装した本館キッチンで衛生管理ルールを決め総菜づくりなどに利用。
- 10/31に100周年記念実行委員会を立ち上げた。

KYOTO YWCA No.559 2020年11月号（11月1日発行）

発行人：上村愈巳子
 発行所：公益財団法人京都 YWCA
 〒602-8019
 京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電 話：(075) 431-0351
 F A X：(075) 431-0352
 e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp
 H P：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566
 口座名義：(公財) 京都 YWCA
 定 価：1部 50円
 発 行：奇数月1日発行